# 保育そのとき〳〵

倉橋生

一、新入園兒は、はじめの一二ケ月、どんなことがあつても、決して叱らぬこと。なじみにならぬ前に叱る資格はない。

一、わざとらしい御機嫌とりをせぬこと。眞實の他に人間を親ます途はない。いくら幼い子どもでも。

一、一齊に集合させることは、出來るだけしないこと。新兵だつて各個教練から始まる。況んや、教練にあらざる教育に於ておや。

「皆さん」この位、新入園兒にとつて異樣、奇怪な言葉はあるまい。そんな言葉を家庭で聞いたことは、誰れだつて無いのだから、奇怪に聞へないにしても、空虛にしか響くまい。

一、一人々々の健康狀態に就て、家庭から詳細に聞いて置く必要がある。胃腸が弱くないか、心臟が弱くないか、氣管が弱くないか——心性に適する保育は初めの中は相當六かしいとしても、身性に不適當な取扱ひ方位は容易に避けられる筈だ。

一、一寸見たところ、どんな子でも、初めの印象で餘りはつきりした批判を下してはならない。親達に對しても。

一、餘り人ずきのしないやうな子から、先きに親しむやう心かけること。可愛いらしい子は、誰れでも可愛がれる。